

本講演の要旨

日常茶飯事とは、日々の暮らしのなかで繰り返される、当たり前のことを意味します。では、この日常の「お茶」とは、どんなお茶なのでしょう。抹茶のほすはないし、高級な玉露でもありません。それは、各地各様の製法で作られ、暮らしに密着していた「番茶」でした。しかも、番茶は飲むだけでなく、茶粥などの食素材にも使われ、人生儀礼にも関わっていました。庶民の日常のお茶と食との関連を中心に、広く東アジアにまで目を向けながら考えてみましょう。

山口県周防大島の豆茶粥

